

しんあい

季刊

2011年(平成23年)2月5日発行 第76号 ◆編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10

TEL 042-367-8801

多摩同胞会のホームページでは、
ブログを毎日更新しています。

<http://www.tama-dhk.or.jp/>
をぜひご覧下さい



季節のさまざまなうつろいを楽しみながら。(泉苑)

- ・特別養護老人ホーム信愛泉苑
- ・特別養護老人ホームかんだ連雀
- ・高齢者在宅サービスセンター
泉苑ケアセンター
- ・かんだ連雀高齢者在宅サービスセンター
- ・養護老人ホーム信愛寮
- ・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
- ・特別養護老人ホーム信愛緑苑
- ・子ども家庭支援センターしらとり
- ・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
- ・母子生活支援施設白鳥寮
- ・府中市立あさひ苑
- ・母子生活支援施設東京都網代ホームさずな
- ・高齢者在宅サービスセンター
- ・府中市子ども家庭支援センターたち

- ・ **社会福祉法人の実践
～ケースに学ぶⅡ～**
- ・ **韓国交換研修報告**
- ・ **施設だより**
「冬の過ごし方」

私たちが大事にしななければ

ならぬこと

高齢者あんしんセンター神田

(地域包括支援センター)

センター長 武田 潤一郎

平成18年4月、介護保険法が改正され「在宅介護支援センター」は「地域包括支援センター」に変わりました。そこで何が変わったのか。それは「介護予防」という大義名分のもと、健康で自立する生活を目指し、サービス量を減らし保険財政を「健全化」するための下支えの役割を担うことでした。

要支援のケアプラン作成や、特定高齢者という要介護状態になるリスクの高い方のケアプランを作成する業務が新たに加わりました。特定高齢者のプラン作成件数が私たちにへの評価の基準となるような風潮も出てきました。介護予防は大事なことです。私は新しい業務をこなすために四苦八苦しているうち、だんだんと大事なことが二の次になっていることに気がつかないでいました。

ビルの4階で一人暮らしの女性。結婚歴はなく、内縁関係の夫が他界してからは世間とのかかわりをあまり持たずに暮らしてきました。ある頃から歩行困難となり、ソファで昼も夜も座りっきりの生活となり次第に衰えていきました。近所の人からの通

報で訪問した時は、両足の膝から下が浸み出した体液でドロドロとなり身動きもできない状態でした。区の担当課へ連絡のうえ救急車を呼びましたが、本人は頑なに拒否し救急車に乗ろうとしません。警察も来て本人を説得しました。区役所の課長も来て相談し、最後は警察官が判断して病院へ搬送しましたが、病院の検査も治療も拒否したため、病院側としては受け入れることができません。日付も替る頃、医師から、誰かが付き添うのであれば入院を許可するとの判断が出てそのまま泊まり込み、説得を続けました。翌日になって少しずつ検査を受け入れてくれたため入院することができ、はじめて介護保険の話をすることができました。その後家族も見つかりケアマネジャーとも契約し、自宅に戻り介護サービスを利活用しながらの生活となりました。

私たちが大事にしななければならないことは、制度や法律以前に存在します。法律が変わっても大事なことは変わらずにあるのだから、その制度の中で守っていかねばならないのです。介護予防も制度の隙間を埋めることも必要、報告書作成も必要、場合によっては折れることも必要。大事なことは、その仕事は誰のためにするものなのか、それを自分なりに考えて、心の中にいつも抱えておくことです。意に反して実績の数字を伸ばさなければならぬこともある、できないことはできないとしっかり

と伝えなければならないこともある、緊急事態なら拒否されてもしなければならぬこともある。ただひとつ、「私たちが大事にしななければならないこと」を見失わなければ、自分の仕事に確信を持つことができま すし、その場では先が見えずに「何をやっているんだろう」と思ったとしても、いつかは道が開けてくるものと思っています。



介護予防講座の風景

体的な援助・サービスで解決する」ことをめざして活動しています。

子生活支援施設からの報告です。

社会福祉法人の実践 ～ケースに学ぶⅡ～

多摩同胞会では、「受けた相談は具
第2回は地域包括支援センターと母

母子生活支援施設における

DV被害者への支援

東京都網代ホームきずな

施設長 近藤 政晴

「きずな」の前身網代母子寮は、昭和21年終戦直後、飢餓線上に彷徨する母と子をその深い絆を断ち切ることをないよう収容保護を目的に開設し、開設後は東京都に土地建物を買い上げてもらい都の運営委託を受けました。

母子生活支援施設は、主として児童を守る立場から母親と子どもとともに入所させ保護する児童福祉施設です。平成9年に児童福祉法が改正され、「母子寮」から現在の「母子生活支援施設」に名称が変更されました。その目的は、母子を入所させて保護するだけでなく、母子の自立の促進のためにその生活を支援するという施設になっています。近年の少子化の進行、家庭や地域の子育て機能の低下に伴う児童虐待や不登校児童の増加など社会的養護を必要とする子どもの増加や虐待等子どもの抱える背景が多様化し、入所世帯の6割以上がDV(ドメスティックバイオレンス)被害者です。

DV被害者がどのような経過を辿って施設入所となるかの一例を報告します。

Sさんは28歳で、昨年5月に仕事の関係でT氏と知り合い、翌月から付き合いが始

まり、すぐに妊娠が発覚、その頃より携帯メールの管理や殴る・蹴る等の身体的暴力による支配が始まりました。10月に婚姻届をT氏が提出しました。婚姻届を出すまでには、結婚を何度も迫られ、殴られ、付き合っている時に撮られた裸体の写真をばらまくと脅迫され、無理やり結婚させられました。

出産後も暴力等が止まず、福祉事務所に相談し、一時保護されたのちS施設に入所しましたが、入所中、携帯電話の電源を入れて夫に居場所が判ってしまいました。その後、夫と夫の母親の三人で話し合い、夫側が離婚を拒否、夫の母親が経済的援助をすることで一旦戻るが、状況はかわらず、再び一時保護され、きずな緊急一時を利用後、都外の母子生活支援施設に入所しました。現在は仕事をしながら、離婚の準備を進めています。

この事例のようにDV被害者は、生命の危機にさらされる暴力を受けながらなかなか逃げだせず、夫から脅迫(ことばの暴力等)等を受けることもあります。このような状況が続くと、避難する行動がとれなくなり、繰り返される暴力により、ストレスから健康を害し、体力、気力が減退し正常な判断ができないのです。こうした中で、これまで築いてきた人間関係や社会的な地位等を断って、きずなにやってきました。しかし、保護しただけでは問題の解決にはなりません。加害者や親族等の追跡があり、

安心できる環境が確保・提供できない場合もあります。その場合には、加害者等の追跡が及ばない新たな場所を探す必要があります。

きずなでは、入所した直後は精神的な安定を図るため、母子指導員や臨床心理士が「心のケア」を行います。その後は、さまざまな課題を解消するための支援を実施し、数年で施設から退所していきます。

母子生活支援施設では、DV被害者が多く入所していますが、入所に至らないで地域で苦しみながら生活している方も沢山います。そうした母と子どもを守るために施設では積極的に支援し、DV被害者の現状を社会に訴えていきたいと思えます。



晴れた日には屋外で交流会が開かれます



2010年韓国交換研修報告



■研修参加者

団長

近藤政晴(きずな)

池田 豊(泉苑)

福井寛之(あさひ苑)

川嶋慶子(かんだ連雀)

藤井貴子(岩本)

堀内賢治(事務局)

金 善英(法人スーパーバイザー)

■研修日程

平成22年10月18日～10月22日



ヨンドンポ老人総合福祉館



歓迎晩餐会
スラッカン料理の数々



尹賢淑(ユンヒョンスク)委員長へ近藤政晴団長より、記念として、寄木細工のお盆を贈りました。



多摩同協会でのお風呂の様子を見て、同じ様に浴室にスピーカーをつけ、音楽を流しているそうです。



対案学校の生徒が日本語で挨拶してくれました。帰り際には『愛してます』と…感激



社会福祉士の役割と利用者(地域住民)とのかかわり等を伺いました。



シンリン総合社会福祉館屋上から地域の様子を撮影。開発で高層住宅が建設される一方、多世帯同居の古い住宅がある。(シート屋根の家は8世帯が暮らしている長屋式の住居)



看護師同士、意気投合!



独り暮らしのお宅を訪問。隣近所の方が自然に見守りをしていました。(2軒訪問) 右は自宅設置用の緊急通報装置。→



これが本当のチジミです。

福祉の基本Ⅱ食

今年、きずなの近藤施設長を団長に金SVの案内と通訳で計7人、4泊5日の日程で平成17年から6回目となる一松（イルソン）学院との相互交流がありました。

韓国では福祉（生活）の基本は食にあるという考えから、1日3食とすることは当たり前で、その内の1食でも食べない・食べられないということは、どこかに何らかの問題があるという見方があるほど食を重要なものと捉えているそうです。事前にその様な話も聞きながら前回までの研修参加者から一松学院の方々は、皆さんパワフルでバイタリティーにあふれているということも聞いていました。

韓国も日本の介護保険に当たる老人長期療養保険が始まり2年が経過して、まだまだ混乱している面が多くあるそうです。その様な中、社会福祉士の役割と考え方は、利用者（地域住民）の為に、問題発見、分析、判断、協力、行動等が素早く行われていました。私も、利用者の為に、という思いもあるし、その様に仕事に取り組んできたつもりでしたが、はたして、地域住民の為に、まで考えていたのだろうか。利用者が施設を利用しやすくするにはどうしたら良いかくらいしか考えていなかったのではないか。一松学院の皆さんは本当に精力的に活動されています。

今になって思うと何ということ

聞いてしまったのかということがあります。それは、研修3日目、4日目のシンリン総合社会福祉館でのこと、福祉館前の車の往来が激しい道路で、地域住民は身の危険を感じながらも、こわこわ横断していました。また、運転手も何食わぬ顔をしていたそうです。それを見ていた社会福祉士が、これではいけないと地域に呼び掛けメディアを活用し、地域の声として行政にも働き掛け、その場所に信号機を整備したという事例を伺いました。その時、私は「行政などがお宅の地域だけ特別扱いは出来ない」と、いうような事はなかったのですか」と、質問しました。シンリンのみなさんは、この人はいったい何を言っているのかと、きょんとした顔で私とそれを通訳した金さんを見つめていました。後に、一松学院の皆さんから、「自分がおかしいと思うことは、他の人もおかしいと感じている筈です。」という話を伺いました。だからそれを発見・分析して意見を発信しているというのです。

私は、何と恥ずかしい質問をしていたのが、日常的に、利用者の為に、と言っていた自分を振り返る良い機会になりました。また、それに気づくことができた今回の研修は自分にとって大変有意義なものでした。国民性の違いはあるにせよ日本も韓国もなく、福祉の仕事に携わっている人間がそこにいることがとても嬉しくなりました。

（池田 豊）

2010年 韓国交換研修日程

1	10月18日(月) 午後 夕方	出国（羽田12：05発 - 金浦14：25着） 歓迎晩餐（スラッカン料理）
2	10月19日(火) 午前 午後	ヨンドンボ老人総合福祉館 紹介・見学、社会福祉士の役割紹介 「セサック（新しい芽）守護天使活動」探訪 学校周辺交通指導及び巡回 生涯教育事業、老人自願奉仕者、老人権益保護事業説明 パロセウム事業紹介（老人長期療養保険関連特化事業） 質疑応答
3	10月20日(水) 午前 午後	シンリン総合社会福祉館 施設及び事業紹介、動画視聴 施設見学 対案学校学生との時間 対案学校紹介、動画視聴、社会福祉士の役割 質疑応答
4	10月21日(木) 午前 午後	シンリン総合社会福祉館 ウリアイ（わが子）希望センター事業紹介 動画視聴、領域別社会福祉士の役割紹介 住民組織化事業、社会福祉士の役割 組織運営事例紹介、小委員会制度事例紹介 質疑応答 ソウルタワーへ移動及び市内散策
5	10月22日(金) 午前 午後	ヨンドンボ老人総合福祉館 在宅家庭訪問 質疑応答 帰国（金浦15：55発 - 羽田17：55着）



施設 だより



冬の過ぎし方

平成22年夏の猛暑のあとは厳寒の新年を迎えました。そんな季節に合わせて暮りして行く子どもたちやお年寄りの生活をお伝えします。

しらとり

今年の抱負

しらとり保育室は今赤ちゃんがいっぱいです。昨年までは寝転がっているだけだったAちゃんは、1人でお座りして遊ぶようになりました。お座りして、にごにこ笑顔をふりまき、周りのお友だちが遊びまわっているのを見守っていたB君はお気に入りのオモチャを求めてズリバイで動き回ったりと成長が見られ、私たちもうれしい限りです。



ズリバイ、ハイハイと元気に動き回る保育室の赤ちゃんたちですが、今のプームはもっぱら「つかまり立ち」です。1人がつかまり立ちをし始めると、競いあうように壁や机、保育士の腕を拝借してと、あちこちでつかまり始めます。自分の腕だけで、のっそりつかまり立ち、プルプルと足を震わせながらも、立った満足感から満面の笑みを向けてくれます。

月齢の大きな子は一歩、二歩と少しずつ足が出るようにもなりました。自由に移動ができるようになると、自分の行きたい所へ行って好きに遊びはじめます。中でも「くずかご」を見つけると、オモチャを持ってハイハイで近づいていき、つかまり立ちをして…きれいに捨ててくれます。好奇心旺盛な赤ちゃんにとっては遊べる空間が広がって楽しいようです。

今年は干支のウサギのようにはしゃぐ動けるようにがんばるぞ!!

(しらとり 保育士 林 真由美)

緑苑

ハーモニカと 雪まつり



新潟県出身のMさんに小さい頃の冬の思い出を伺いました。
Mさん「僕の故里の新潟の十日町は雪は降るけど、近くに氷が張るような沼や湖が無かったのでソリばかりしていたよ」

私「ソリの板は木製ですか？」

Mさん「もちろん自前だよ。僕はソリ作りの名人と呼ばれたからね(笑)」

私「ソリの腕前も名人と呼ばれました？」

Mさん「それは無かったな。残念だけど(笑)」

私「他には冬の楽しみは何がありました？」

Mさん「知らないかな。十日町はね。雪まつりが有名なんだよ。大きなまくらを作ったり。けんちゃん汁が配られたりね。後は着物の発表会もあったな」

私「着物の発表会ですか？」

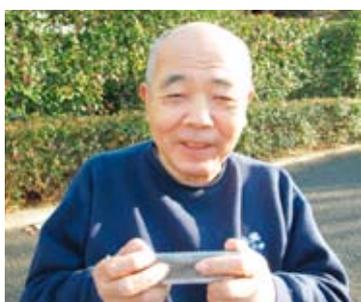
よくよくMさんの話を聞いてみると、着物発表会は、着物を着た十日町のミスコンテストのようです。

Mさん「とにかく若いきれいなお姉さん達の着物姿がすてきだったね」

私「Mさんは雪まつりに個人的に参加しなかったのですか？」

Mさん「僕はね、歌はうまくなかったけどハーモニカが得意だったから、大きなステージに上がって何曲か披露して賞ももらったよ」

そういえばMさんは、今も、とってもハーモニカがお上手で忘年会などの行事のときには披露してくださいます。演奏されている時には、子供のころに雪まつりで賞をもらった事を思い出しているのでしょうか。



(緑苑 支援員 平岡 貴弘)

連雀

寒さ対策

季節に関わらず高齢者には寒がりの方が多くですが、冬になるとみなさん寒さ対策に一層余念がありません。

ソファでゆっくり寛ぐときなどに欠かせないのが膝かけです。暖かいだけでなく、かけると安心感があるようです。いつも相棒のようにユキさんの膝の上には赤いそれが乗っています。

肌着は厚手のものを着る方が多くなります。「これがないとダメなのよ。パ・バ・シャ・ツ」とツキさん。若者がよく使うその呼び名に、思わず一緒に笑いだしてしまいました。

お風呂で脱衣のお手伝いしていると、まるで玉ねぎの皮のように脱いでも脱いでも次が控えているハナさん。「あら、まだ着ていましたねー」「寒く



てねえ」と会話しながら腰を見るとホッカイロもばっちり貼ってあります。見えないところの寒さ対策も抜かりはないですが、スカーフをさりげなく巻いたり、おしゃれをしながら魅せる寒さ対策をしてらっしゃる方もいて、素敵だなと思います。まだ寒い日は続きますが、みなさんと寒さ対策の工夫を楽しみながら春が来るのを待ちたいと思います。

（かんだ連雀 介護員 水田めぐみ）

きずな

風邪対策

寒さも厳しさを増してきましたが、保育室の子ども達は元氣一杯！

天気の良い日はできる限り戸外へ出て冬の遊びを楽しみます。霜柱を見つけてはサクサク踏んだり、公園の池に張る氷をついたり、落ち葉を拾い集めたり…。日常生活そのものが健康な体力づくりの場となるよう、きずなの自然溢れる環境の中で日光浴、外気浴を積極的に取り入れています。

また施設としての行事も多く、楽しいことが目白押しこの季節ですが、この寒さに向かいやってくるのが風邪や感染症です。この季節は感染力の強いウイルス性のものが多く、抵抗力が弱っているとすぐに感染してしまいます。



散歩や保育園からの帰園後、食事前、排泄後などは必ず石鹸で手を洗います。その後、自分専用のお気に入りのタオルで拭くと、「いい匂いでしょ？」と自慢気に保育士の鼻に手を近付けてきます。そして、食事前には手洗い後にアルコール消毒を欠かしません。保育士の少しの声掛けで、子ども達は生活習慣として習得していきま

す。自分の身体を自分で守る、とても大切なことだと思えます。

（きずな 保育士 萬 友希子）

たち

うさぎの親子

ファミリー・サポート・センターの講座終了後、参加されていたAさんが「うさぎの作り方を教えるわ。簡単だからすぐできるわよ」と、急ぎよ折り紙教室が始まりました。

「簡単だから…」という言葉とは裏腹にすぐに出来上がらず、みなさん悪戦苦闘していました。



「ほらーこれじゃあ、顔が大きくなっちゃうじゃない!」「ここをよく見てーこーよ!」というAさんの厳しくも暖かい口調で、教えていただいている方も「わからない」と言いながらもお部屋には笑い声が響き、和気あいあいとした雰囲気に包まれていました。

なんとか最後まで折り上げた時には、みなさん達成感いっぱい表情と「できた」と安心された笑顔が見られました。

出来上がったうさぎは、たちの総合窓口にも仲良く飾られています。作ってくださった方々の暖かく楽しい雰囲気と、一生懸命作り上げようとしたたたくさんの思いが込められたうさぎの親子は、来館するお子さんや保護者の方々にも「かわいい!」「これ折り紙なんです。すごいですね」と人気者です。

寒い冬も外を元気に走りまわるうさぎのように、楽しくこの冬を乗り越えていきたいと思いました。

(たち ファミリー・サポート・センター 嶋田 歩)

泉 苑

ほっこりした話

今年も残りあとわずかという時期に、信愛泉苑でも忘年会のシーズンがやってきました。

敬老会や新年祝賀会等とは一味違い、かしまった形式ではなく【利用者職員がゆっくりと楽しく過ごす忘年会】というテーマのもと、ゆったりと過ごすのが目標です。

とはいえ日頃バタバタしているホームです。【利用者ゆっくり】が中々思い浮かびませんでした。今年の家族懇談会で日常のホームの様子を撮った写真をスライドショーという形で流していたと聞き、「これは良い!」年間利用者職員と一緒に振り返ることができる!」と思い作成することになりました。

一ヶ月前から作成を開始。利用者の笑っている写真や怒っている写真を一枚手にとっては、「こんなことがあったよね」と、亡くなられた方の写真も残っていて「この時Aさんとよく笑ったよね」と思い出が尽きない写真ばかりで、気が付けば作成への思い入れが強くなっていき、作り上げることが出来ました。

忘年会当日、音楽にのせて泉苑の風景と、それぞれの思い出写真が流れました。「私が出る!」利用者から嬉しそうなお声があふれ、思い思いに楽しんでいる様子を見て、自然と私も笑顔になりました。このスライドショーも思い出の一つとなりました。



(泉苑 介護員 馬場 廣佑)

あさひ苑

お楽しみ「鍋料理」

ほっとサロン（地域デイサービス）。

十二月恒例の忘年会食「鍋料理」。調理の職員さんが毎年工夫して、腕を振るってくれます。利用者の皆さんには、「お楽しみ鍋」とだけお伝えして、中身は楽しみにしてもらっています。



本日の流れの説明がすむと、皆さん口々に、皆さん口々に、昨年は「豆乳鍋」だったから、今年は何にかしら…。あらっ、昨年は「きりたんぼ鍋」だったわよ。「豆乳鍋」は一昨年よ。その前は「海鮮鍋」だったかしら等、食べる前からお腹が一杯になりそうな話で盛り上がりま

す。
そうこうしているうちに、もうすぐお昼。今年の鍋の中身は、大根、はんぺん、玉子…。「アッ！今年は、おでん鍋よ」。鍋に火が入り、良い香りが辺一面に立ち上るころ、お腹はグーめいめい取り皿に好きな具をとり分け、全員そろって「いただきます」。ご飯は帆立の炊き込みご飯。具は他にえび団子、五目巾着、魚河岸揚げ、昆布等全十品目と盛り沢山。果物は、苺にメロン、デザートはオレンジケーキと紅茶。今年も、大満足の年忘れ「鍋料理」でした。
ごちそうさまでした。

（あさひ苑 介護員 紺野 一哉）

岩本町

暖かいセーター

ここ岩本町ショートステイでは、毎月利用者の方々と一緒にカレンダーを作ります。ショートトの壁の一番目立つ場所の壁に掲示して作成したひとだけでなく、利用者全員で1ヶ月の間、楽しみます。内容は毎月の担当者が、季節感のあるものをテーマにして作成します。今回は寒がりの利用者が多いので何か見るだけで暖かくなるものということで、「大きなセーター」に決めました。



いざ、大きなセーターカレンダーが完成し貼りはじめました。

すると「右肩が2cm下がってるわね」と松さん。「こんにちはと入ってきて曲がって貼っていると気持ちが悪いわね」と竹さんに同意を求めます。そこで左肩を少し上げてみます。「ちょうどいいんじゃない」という梅さん。その言っている横で「今度は1cm左肩が上がりすぎ」と松さんがみんなに同意を求めています。
必死の微調整の甲斐があり誰もが納得の位置に掲示することができました。
松さん完成後、満足感から大きな息を数回はき「気持ちいい」と大声でつぶやいています。

松さんの大声でのつぶやきは、カレンダーが誰も納得のいくものに仕上がりが、その場にいるメンバー全員の気持ちを代弁していました。

私はカレンダーを見ると完成したときの達成感、高揚した気持ちを思い出してセーターを着たときのようなほかほかした気持ちになります。

（岩本町ほほえみプラザ介護員 市崎 実孝）

ニュース

調印式

特集にもありますが、韓国交換研修は6回を重ね延べ34名の法人職員が訪韓しました。

その間に、一松学院社会福祉委員長も交代され、当初取り決めたことも状況に合わせて変更している経緯もあり改めて調印を結ぶことになりました。

昨年8月に法人より常務理事ほか3名が一松学院の本部のある韓国・春川(あの冬ソナで有名な場所です)の翰林大学を訪問し、10月には一松学院、尹賢淑社会福祉委員長ほか2名が法人の各施設を訪問されました。

11月17日、きずなにおいて調印式を行い、今後の交換研修のあり方について協議しました。それぞれの国の文化・歴史、福祉制度を学び、お互いの仕事に活かしていくことを再度確認しました。



中央の方が伊委員長

(上野廣美)

御寄贈・御寄付ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

NPO法人スマイルハートチルドレン理事長長田村陽光 NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン 浅川潤一 池田和優 石井宏 伊藤忠テクノソリューションズ 池田廣子 大沢良三 太田孝一 大塚元子 岡田敏子 小澤末子 株式会社アップルプラファーム代表取締役上島瑞美 鎌倉康雄 岸豊子 北山幼穂 国際ソロプチニストあきる野会員 国際ソロプチニスト東京支部(前川浩子・加藤礼子) 小島ユミ子 坂本信子 JX日鉱日石エネルギー(株) 社団法人武蔵府中法人会女性部会 浄土宗八王子組青年会 田島弘之 田中翠 (株)デジタルダイヤレクト 東京善意銀行 特定非営利活動法人どんぐりパン管理者篠崎裕子 奈良勝康・津起江 日本水産(株)水産営業部 野村ミツ 平田和考 藤中朋子 松下朗 望月友子 弓削田恵美子 横田基地広報部 吉田ヒサ子 (2010年10月~2010年12月)

ボランティアの御協力ありがとうございます(敬称を省略させていただきます)

会田久枝 青山幸子 赤林好子 秋山恵美子 浅野サダコ 朝日保育所 網代恵美 飯代弘子 新井美樹 荒井利香 有本陽子 有馬政子 飯塚喜多子 井口イモ 池鳥敦子 囲基を築しむ会 石井忠男 石井宏 石井美保子 石神仁美 石坂友子 石坂勝世 石澤圭子 市川アイ子 市川知子 市川尚子 伊藤うめ子 伊東富美子 井上真左子 井上陽子 井踏世津子 今井百合香 岩佐和栄 岩崎順 岩崎敏信 上田悦子 上野玲子 上原智美 植松八千代 魚川桂子 鶴澤シツ 内堀美喜 梅原薫 梅原光洋 江口重洋子 江田廣子 海老原志づ子 遠藤伊代 遠藤みつ子 遠藤陽子 大久保幸子 大倉弘子 大島庸子 大塚沙恵 大野典子 緒方シゲ子 岡田基子 岡野玲子 岡裕子 小川健治 小熊美和子 奥山亜子 奥山チヤ子 小倉富子 小倉道子 オコサの会 尾崎節子 尾崎ヨシ子 小笹裕子 小澤アイ子 御野礼子 折田浩一 海江田紀久子 柿本純子 学生団体SOLA 笠間豊子 鹿島千重子 梶山純子 サミ 柏山和子 片桐キミ子 カットサロンアベ 加藤紀久代 加藤静 加藤美枝子 加藤洋子 金澤静江 金子武仁 上沢美和子 川上満寿美 川崎綾子 川迫美奈子 川島順子 川邊明子 木崎恭子 北村よしこ 北山幼穂 木村幸子 木森哲 久保田摩耶子 蔵内睦子 倉地七重 栗原宏子 桑原侑子 笠間まさこ アブルメ 小石暁子 小泉純子 小出農一 小出由美子 小岩井雅人 河野トシヨ 国分崇裕 小島ユミ子 小島百合子 小島義雄 小菅よし江 五谷律子 後藤祐輝 小林真弓 小林美代子 紺野和子 今野幸子 齋藤孝子 齋藤則子 酒井和子 佐久間桂子 櫻井明 櫻井正治 桜山健 佐々木英子 佐藤秋子 佐藤英子 佐藤公子 佐藤恵子 佐藤妙子 佐藤なな子 佐藤初江 佐藤ミドリ 佐野田鶴子 JX日鉱日石エネルギー(株) 塩澤佳津子 重田文子 重田美田紀 品田啓子 鳥津朱実 嶋野真理子 清水文枝 下江美鈴 下中恵美子 下宏子 十べえお話の会 庄山早希 進藤サエ子 進藤理子 杉本節子 杉山恵子 鈴木好枝 鈴木嘉子 スターバックスコーヒー 須永あゆみ 瀬戸貞子 浅岡の森ハインドベルの集い 蘭田澄子 高澤久美子 高鍋恵子 高沼ひとみ 鷹野榮子 高橋恭子 高橋ちよ子 田口裕香 竹内由美子 竹松ふく 辰本ケイコ 田中久美子 田中幸子 田中多佳子 田中智加子 田中翠 田部美智子 玉井榮子 丹野由紀子 土屋和子 土屋とさ枝 角田洋子 戸井田清子 戸井田紀子 東郷實枝 子 戸谷伸一郎 栃谷さき 富田和代 富田秀子 豊永昌子 永井エエ子 中里良久 中下秀子 中嶋永子 長島広美 永野雄大 中村紀久子 中村清美 中村フサ子 中村美佐江 中村恭俊 中山康 中山雍子 那須史子 西久保長子 西宮智恵子 西村珠美 西山京子 二宮澄子 根岸路子 野口春美 野坂昭弘 谷川宣子 パトリックサラガン 羽島みのる 濱田理奈 早川洋子 林由美子 羽山直子 原恭子 原田園彦 原田康子 樋口淳子 樋口雅子 樋口よし子 肥後住江 尾藤智子 平泉順子 平澤みどり 平田敦子 広木さき江 二上侑子 船岡栄子 舟久保良子 舟見三子 ふれあいクラブ浅間 星川美津子 星野智子 星野ユキエ 堀田武三郎 ボディーションショップ 堀切重明 本田純子 前田宗治 前田玉代 牧内ヤス子 政所優季 松浦良枝 松尾和枝 松川友樹 松木典代 松木佑太郎 松木優利香 松木良磨 松澤通子 松下朗 松下朋子 松下葉子 松島加奈子 松田恵子 松野アイ 松本宜恭 三坂和子 水谷静江 三井淑子 三輪孝子 壬生みつ子 宮崎清子 宮崎嘉子 宮下美智子 宮田由絵 明神淑恵 明神冷子 村井福子 村野豊子 目々澤美智子 望月友子 百瀬洋子 森田珠恵 森近恵梨子 森満隆文 森玲子 森脇敦子 八重の会 谷貝祥子 矢ヶ崎綾子 山下優子 山田一丸 山田ケイ子 山田順子 やまびこ保育園 山本峯子 横田公子 横山喜美子 横山須美子 横山洋子 吉川孝一 吉田育子 吉田千鶴子 吉田恒雄 吉田ヒサ子 吉田陸子 米山秀子 脇山令子 渡辺勇 渡辺勝征 渡辺キク 渡辺秀雄 渡邊弘子 渡辺守 渡辺光枝 (2010年10月~2010年12月)



編集後記

冬はやっぱり「お鍋」です。ね!!暖かいお鍋を囲んで、冬を楽しみたいです。 (あさひ苑 長峰茂子)

寒い寒い毎日。毎朝なかなか布団から出られません。冬の朝はいつも戦いです。春が来るまで頑張ります。 (あさひ苑 伊東裕子)

今年は大掃除を終えることが出来ました。新しい気持ちで新年を迎えられました。 (泉苑 黒部雅之)

ウインタースポーツ好きの私には楽しみな季節です。早く雪が降らないかな。と密かにワクワクしています。 (泉苑 親泊美輝子)

22年もあつという間に1年が過ぎました。23年はもう少し有意義な時間の使い方をしたいです。 (緑苑 大沢清佳)

毎日寒さに耐えて頑張ります。春が早くこないかな。暖かい太陽が待ち遠しいです。 (若本 谷川蘭)

命を知る年となった私ですが、気持ちには「吾十有五而志于学」 (編集長 上野廣美)

介護に関するご相談は 無料ダイヤルで! ●泉苑在宅介護支援センター ☎0120-6540-24 老後支援24時間 ●あさひ苑在宅介護支援センター ☎0120-2942-24 福祉にっこり24時間

多摩同胞会の ホームページを 携帯でもどうぞ! (QRコード)